

## ワンポイントアドバイス

### より安全なお産をめざして

川口市立医療センター  
産婦人科 市川 剛



昨年の出生数が86万人という少子化が進む中、安全に周産期（妊娠が判明してから安全にお産をして出産後落ち着くまで）を過ごすことはより大切になってきました。妊娠前から健康的な生活をして子育ての環境を整えることは、そのための最初の一步になります。

川口市立医療センターで分娩を希望する妊婦さんは、妊娠反応が出て妊娠6週くらいになったら当科を受診するか（産科に限り紹介状はなくて大丈夫です）、近隣の医療機関を受診して当センターへの紹介状を出してもらうことになります。

当センターは、地域周産期センターとして正常分娩からハイリスク分娩まで幅広く受け入れ、年間約600件の分娩を取り扱っています。産婦人科には、1月現在、常勤医師6人、非常勤医師5人の計11人が勤務しています。24時間体制で産科医、新生児科医が常駐し、全ての妊婦さんに、安全・安心な周産期医療を提供しています。

助産師も常駐していますので、妊娠中から分娩、産後までの入院生活の中で不安なことや質問がありましたら、いつでもご相談ください。



## 新型コロナウイルスに関連した肺炎に注意!!

2019年12月以降、中華人民共和国湖北省武漢市に居住するかたを中心に新型コロナウイルスの患者が報告されています。

### ◆厚生労働省より国民の皆様へメッセージ

今後とも各関係機関と密に連携しながら、迅速で正確な情報提供に努めてまいります。国民の皆様におかれましては、過剰に心配することなく、マスクの着用や手洗いの徹底などの通常の感染症対策に努めていただくようお願いいたします。

武漢市から帰国・入国される方におかれましては、咳や発熱等の症状がある場合には、検疫所で必ず申し出下さい。また、国内で症状が現れた場合は、マスクを着用するなどし、あらかじめ医療機関に連絡の上速やかに医療機関を受診していただきますよう、御協力をお願いします。なお、受診に当たっては、武漢市の滞在歴があることを申告してください。（令和2年1月24日報道発表資料より）

### 次の症状があるかたは、保健所にご相談ください。

熱(37.5度以上)と呼吸器症状(咳、痰、呼吸困難、息切れなど)がある

- ①2週間以内に武漢市への渡航歴がある
- ②「武漢市への渡航歴があり、発熱かつ呼吸器症状を有する人」と2週間以内に接触歴がある

上記に当てはまる場合は、マスクを着用した上、受診する前に保健所または医療機関に必ず電話で連絡してください。感染を拡大させないために大切なことです。ご協力をお願いします。

※この情報は、令和2年1月24日現在のものです。

☎疾病対策課 ☎048-423-6726



## イベントスケジュール

5日(水)

第30回川口市暴力追放決起大会  
場リリア 音楽ホール

8日(土)

COLORFULふえすた  
場フレンドシア

16日(日)

第11回川口市外国人による日本語スピーチコンテスト  
場フレンドシア

11日(祝)~3/8日(日)

旧田中家住宅の桃の節供 雛人形の展示公開  
場旧田中家住宅

7日(土)

川口市明るい街づくり運動推進大会  
場リリア 音楽ホール

8日(日)

川口市消防防災フェア2020 / ふれあいフェスタ  
場リリア・川口西公園

15日(日)

ありがとう 聖火台記念式典  
場キュボ・ラ広場



## 川口の鋳物を後世に

鑄金工芸教室 アドバイザー

岸 洋さん  
(芝中田)

鋳物を作り続けて半世紀以上。あらゆる鑄造技術と知識を駆使できる数少ない鑄物師の一人である。「長寿の秘訣は何かに夢中になること。私にはそれが『鋳物』でした」。

鋳物の道を歩み始めたのは25歳のとき。島根から母の故郷である川口へ移住し、親戚の鋳物工場から誘われたのがきっかけだ。「鋳物の知識も無く、不慣れな地での不安もありましたが、鋳物への憧れや母の後押しで決断できました」。入社後は砂の片付けや製品の運搬などの雑用をしながら、社長の勧めで簡単な型入れなどの作業も担うように。すると、腕前はメキメキ上達し、10代にきこりで培った体力と器用さで、他の鋳物職人と肩を並べて活躍するようになった。

うになった。「モノを作れる嬉しさ」と責任感。完成した製品を見ると達成感が満たされた。「懐かしむ」。

昭和49年に市が高等職業訓練校を開校したことを知り、すぐに夜間の鋳物教室に通い始めた。「忙しい鋳物工場とは違い、自由に作品を作る面白さにすっかりはまりました」。その教室で講師を務めていたのが1964年東京五輪の聖火台製作者である鈴木文吾氏。生涯の恩師との出会いであった。文吾氏からは「聖火台を作った伝統技法である『惣型』の手ほどきを受けた。『惣型』は他の型と使う砂が異なり、とても高度な技術が必要。視覚や触覚など、五感全てを使う職人技を教わりました」。



現在は鑄金工芸教室での指導はもとより、市内外の学校の鋳物実習などでも鋳物の魅力を伝えるため、精力的に活動している。その技術と功績が認められ、厚生労働大臣が卓越した技能者を表彰する「現代の名工」、さらには黄綬褒章を受章するなど、名実ともに名工となった。「訓練校時代に立ち上げた川口鑄金工芸研究会の存続と、伝統的な鋳物の技法を継承することが私の使命。倒れるまで鋳物を作り続けます」と熱く語る。川口鋳物を後世に残すため、鋳物づくりに奮闘する日々が続く。(勝)